

令和5年国語科評価規準 第1学年

単元・教材のねらいと、「学習指導要領」に示された「指導事項」「言語活動例」から、あてはまるものを表示。重点指導事項には、◎を付した。
△知識・技能 ◇話すこと・聞くこと ■書くこと □読むこと ☆他教科との関連

- 〔第1学年及び第2学年〕目標（「学びに向かう力、人間性等」の単元目標）
- (1) 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
 - (2) 順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつことができるようにする。
 - (3) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にしてい、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
4	3	なかよしの き	□挿絵を見ながら気づいたことを話し、話を想像しながら物語を楽しむとともに、国語学習への関心や意欲をもつ。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。⇒知技(1)ア △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。⇒◎知技(1)イ □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。⇒◎思判表C(1)イ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。⇒思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。⇒思判表C(1)カ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。⇒思判表C(2)イ	1	1. 挿絵をもとに話を想像し、気づいたことを話し合う。 *季節はいつか。 *登場人物は。 *どんなお話か。	○国語学習のスタートにあたり、言葉の楽しさを味わい、国語への期待を高めるような展開を心がける。学習ルールも大事だが、はじめは、どんなことを言っても温かく受け入れる雰囲気を作ることが大切である。 ○あらずじは自由に発言させながら教師がまとめている。	◎【知識・技能】姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。（〔知識及び技能〕(1)イ） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cイ）
				2	2. (一)・(二)・(三)の場面から想像したことを話し合う。 (1) 場面を比べて気づいたこと話し合う。 (2) 声に出して読む。 (3) 「あ」や「あれ」の後に続く言葉を考える。	○(一)の場面と(二)の場面を比べて違いを話し合う。 何が起きたのか挿絵の人物になって発表させる。 ○(二)と(三)の場面を比べて違いを話し合う。 ○「あ」「あれ」の読み方を工夫させる。(三)場面は声をそろえて読むようにさせる。	【態度】進んで場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉え、学習の見通しをもって内容や感想を話し合おうとしている。
				3	3. このお話でいちばんおもしろいところはどこか、話し合う。 (1) (三)の場面を見て、自分なら「なかよしのき」でどんなふうに遊びたいか考えて話し合う。 (2) いちばんおもしろいと思った訳が言えたら発表する。	○挿絵の細かい部分までよく見て考えさせる。 ○おもしろいところは、それぞれの感じたものを認め、特にまとめない。おもしろいと思った訳は、言えたら言ってもらう程度で無理に言わせない。言えた子を褒めた。	
4	2 (話す聞く2)	たのしい いちにち	◇学校生活のさまざまな場面の挿絵をもとに、挨拶の言葉を考え、場面に合わせた挨拶ができるようにする。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。⇒知技(1)ア △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。⇒◎知技(1)イ ◇身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。⇒思判表A(1)ア ◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。⇒◎思判表A(1)ウ ◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。⇒思判表A(2)ア ☆道徳：B礼儀 気持ちのよい挨拶、言葉遣い、動作などに心掛けて、明るく接すること。	1	1. 挿絵では、みんなが笑顔である事に着目し、楽しい一日を送るのに大切なことを考える。 (1) 朝の登校の絵から挨拶の様子を話し合う。 *誰と挨拶しているか。 *何を言っているか。 (2) 自分の挨拶はどうか、振り返る。 (3) 挨拶の練習をする。	○楽しい一日のためには、心をこめた挨拶や言葉かけが大切であることに気づかせる。 ○「おはようございます」の挨拶だけでなく、相手の思いやる言葉も大切であることを知る。例えば「今日もがんばってね」「きのうはありがとう」など。 ○「挨拶名人」の観点を話し合って決め、教室に掲示しておくことよい。 (観点の例) 相手に聞こえる声で はっきり 相手の目を見て 笑顔で 自分からすすんで など ○教師対児童、児童どうしで、挨拶の練習をする。地域のかた、校長先生、担任の先生、主事さん、知らない先生など、役割を決めて挨拶する。	◎【知識・技能】姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。（〔知識及び技能〕(1)イ） ◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Aウ）
				2	2. 挿絵をもとに、学校生活のさまざまな場面での挨拶や言葉のかけ方を練習する。 *朝、教室に入るとき。 *教室で教師に「はい」と返事をするとき。 *来校者を迎えるとき。 *職員室に入るとき。 *給食を食べるとき。 *お礼を言うとき。 *謝るとき。 *さよならするとき。	○隣の席の人と組みになり、役割を決めて挨拶の練習をする。 ○言葉だけでなく、身ぶりや表情も交えながら、はっきりと話させる。姿勢や口形にも留意させたい。 ○組みになり、双方が言葉をかけ合うことが大切である。 (例) A「ぶつけてごめんなさい」 B「だいじょうぶだよ」 など ○みんなの前で行ったり、友達との挨拶を聞いたりして、よい挨拶の仕方を理解する。 ○今後も、相手や場をを考えて、すすんで適切な挨拶を確認することを確認する。	【態度】積極的に姿勢や口形、発声や発音に注意して、学習の見通しをもって挨拶をしようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
4	1 (話す聞く 1)	こえを あわせて あいう えお	◇姿勢や口形、声の大きさや速さなどに注意してははっきりした発音で読む。 △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 ⇒◎知技(1)イ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ⇒◎知技(1)ク ◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。 ⇒◎思判表A(1)ウ ◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。 ⇒思判表A(2)ア	1	1. 「こえを あわせて あいうえお」を、教師のあとについて音読する。 2. 「こえを あわせて あいうえお」を音読し、リズムのよさや声を合わせる楽しさを味わう。	○何度も読み、声の速さや、はっきりした発音などに慣れさせる。 ○リズムの心地よさや、全員で声を合わせる楽しさを味わい、覚えるくらい読みこむと、姿勢や口形に気をつける余裕が出てくる。 ○単に大声を出すのではなく、声をそろえるように指導したい。全員で読む、一人で読む、交代で読むなど、読み方に変化をつける。 ○友達の読みを聞くことも大事にしたい。	【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク） ◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Aウ） 【態度】積極的に姿勢や口形、発声や発音に注意して、学習の見通しをもって音読しようとしている。
5	1	あいうえお	△母音や簡単な平仮名を正しく読んだり書いたりするとともに、音節と文字の関係に気づき、姿勢や口形、発声や発音に注意して話す。 △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 ⇒◎知技(1)イ △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)ウ	1	1. 挿絵を参考にしながら、「あいうえお」で始まる言葉を見つけ、声に出して読む。 2. 姿勢・鉛筆の持ち方に気をつけて、平仮名を丁寧に書く。	○二音または三音で構成されている言葉を、それぞれの読む。手拍子を打ちながら読むと、音節が意識できる。 ○筆順に気をつけて、ゆっくりと書くようにする。書く前に、鉛筆を持って空に書くようにし、筆順を確認める。	◎【知識・技能】音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。（〔知識及び技能〕(1)イ） 【態度】積極的に姿勢や口形、発声や発音に注意して、学習の見通しをもって声に出して読もうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
5	3 (話す聞く3)	みつけて はなそう、たのしく きこう	◇挿絵をもとに話題を見つけて話し合い、相手の話題に対して、簡単なことを尋ねたり応答したりする。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒◎知技(1)ア ◇身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒思判表A(1)ア ◇互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつなぐこと。 ⇒◎思判表A(1)オ ◇尋ねたり応答したりするなどして、少人数で話し合う活動。 ⇒思判表A(2)イ	1	1. 挿絵を見て、誰がいるか、どんなことをしているかなどを話し合う。	○挿絵を見て気づいたことを自由に発表しながら、興味を高めていく。 ＊誰がいるか ＊どんな遊びをしているか ＊どんな生き物がいるか など	◎【知識・技能】言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。（〔知識及び技能〕(1)ア） ◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつないでいる。（〔思考力、判断力、表現力等〕Aオ）
	2 (書く1)	かき、かぎ	△清音と濁音、半濁音の違いを理解して、正しく文を書く。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)ウ △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 ⇒知技(1)カ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ ■簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ	4	4. 挿絵と言葉を対応させながら、清音・濁音・半濁音の言葉を声に出して読む。 (1) 書き順に気をつけながら新出文字を書く。 (2) 濁点の書き方を理解する。	○教科書にある清音・濁音・半濁音の言葉を読み、書き方に気をつけて書く。P27の濁音の混じった言葉遊びの詩をリズムよく音読する。	◎【知識・技能】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ）
	2	ことばを あつめよう	△言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、言葉を考えて読んだり、書いたりする。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)ウ △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付く、語彙を豊かにすること。 ⇒◎知技(1)オ	6・7	6. 挿絵を見ながら、提示された言葉を読む。 ・書き順に気をつけながら新出文字を練習する。 7. 新出の平仮名の書き方を理解し、正しく書く。	○P28・29の新たに提出された平仮名を、挿絵と対応させながら声に出して読み、書く。 ○新たに提出された11文字の平仮名の書き方を理解し、語句としての意味のまとまりを考えながら、正しく書く。 ○「そ」「ぬ」「み」は折れや曲がりに気をつける。「ぬ」「み」は書きだす位置に気をつけると形が整いやすい。	◎【知識・技能】身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使っていると同時に、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付く、語彙を豊かにしている。（〔知識及び技能〕(1)オ） 【態度】進んで身近なことを表す語句の量を増やし、学習の見通しをもって読んだり書いたりしようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
5	3	くまさんと ありさん の ごあいさつ	□登場人物の様子を考えながら、楽しく音読する。 △丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れること。⇒知技(1)キ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。⇒◎知技(1)ク □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。⇒◎思判表C(1)イ □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。⇒思判表C(1)エ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。⇒思判表C(2)イ	1	1. 短いお話の概要をつかんで、楽しく音読する。 (1) 挿絵を参考にしながら、誰が出てくるか、どんな様子かの大体をつかむ。 (2) 教師の範読を聞き、お話の概要を知る。 (3) 語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読する。	○挿絵を見て、お話に興味をもたせる。 ○挿絵絵や、挨拶の文字の大きさの違いから、大きな「くまさん」と小さい「ありさん」の対比に気づかせる。 ○教師の範読を聞きながら、指で文字を追って読ませる。教師は範読しながら机間を回り、教師の読む速さについてきているか、確かめながら読むようにする。 ○音読するとき、読点「、」や句点「。」はくぎること、特に句点は間をあけることなどに気をつけさせる。 ○促音「っ」に気を付けて、リズムよく読めるように、「せおって」や「しっかり」などを取り上げて、何回か練習するとよい。	◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cイ） 【態度】進んで場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉え、学習の見通しをもって内容や感想を伝えようとしている。
	2 (書く1)	ねこ、ねっこ	△促音の読み方と書き方、句読点の使い方を理解する。 △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。⇒知技(1)イ △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)ウ △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。⇒◎知技(1)カ △丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れること。⇒知技(1)キ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ ■簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。⇒思判表B(2)ウ	4	4. 挿絵を見ながら、促音のついた言葉とつかない言葉を、読んだり書いたりする。 (1) 手拍子を打ちながら、音節を意識して音読する。 (2) 促音の表記の仕方を知り、ノートやワークシートに書く。	○提示された言葉のほかに、促音のついた言葉を集めたり、教科書にある促音を使った短い詩を、リズムよく読んだりする。 ○促音「っ」の書き方をおさえる。 ＊ます目の中の書く位置 ＊大きさ ○促音の「っ」は、それ自体は発音しないが、言葉の中では一拍（一音）として数える。拍としてきちんと教えられれば、表記の抜けが起こらないので、手で拍子を取りながら読むなどして、拍を意識づけたい。 ＊きって せっけん など ・ ・ ・ ・ ・	
				5	5. 助詞「は」の使い方、読点（、）や句点（。）の打ち方に気を付けて文を視写する。挿絵を参考に、簡単な敬体の文を考える。 ・考えた文「……は、……ました。」をノートに書く。	○言葉につく助詞の「は」は、「ワ」と読み、言葉と言葉をつなぐはたらきをしていることをおさえたい。助詞の「は」は文節のくぎりはっきりさせている。このあとの教材でも助詞の「は」について復習する機会があるので、ここでは言葉をつなぐはたらきを意識づけるにとどめてもよい。 ○主語と述語で構成された簡単な敬体の文を考え、句読点を正しく入れて文を書く。教師がゆっくり板書し、それを見てノートに書かせる。 ○敬体は初出のため、板書で視覚にも訴え、使い方に慣れるようにする。	◎【知識・技能】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ） ◎【知識・技能】文の中における主語と述語との関係に気付いている。（〔知識及び技能〕(1)カ） 【思考・判断・表現】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ） 【態度】積極的に促音の表記、読点の使い方を理解し、学習課題に沿って簡単な文を書こうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
5	3	ほんを よもう	△読みたい本を探して読んだり、読んだ本について友達や教師に話したりして、読書に親しむ。 △昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむこと。 ⇒知技(3)ア △読書に親しみ、いろいろな本があることを知ること。 ⇒◎知技(3)エ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 ⇒思判表C(2)イ	1 2・3	1. 教科書に紹介されている絵本の表紙や題名を参考に読みたい本を選び、読み聞かせを聞いたり、自分で読んだりする。 2. いろいろな本を読み、おもしろかったところを友達と伝え合う。	○ふだんから読み聞かせをし、絵本への興味を高めておく。教室に絵本を置き、いつでも手に取れる読書環境を整えておくことも大切である。 ○教科書で紹介されている絵本は、できるだけ現物を用意し、読み聞かせをしたり、紹介したりする。 ○学校図書館の絵本コーナーに行き、活動するとよい。 ○本を選べない児童には、個別に声を掛け、教師と一緒に読んだり、興味を持ちそうな本を薦めたりする。 ○気に入ったページを見せながら、おもしろいところを伝えるようにさせると、交流が具体的になる。 ○児童のおすすめの絵本は、児童の名前を付付けて教室に展示すると、いろいろな本を読んでもみようという意欲が高まる。	◎【知識・技能】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。（〔知識及び技能〕(3)エ） 【態度】積極的に読書に親しみ、学習の見通しをもって感想を伝え合おうとしている。
	2 (書く1)	ことばを つなごう	△意味による語句のまとまりを考えて、つなげる言葉を書く。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)ウ △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 ⇒◎知技(1)オ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ ■簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ	4・5	4. 挿絵を見ながら、提示された言葉を読み、空欄にどんな文字が入れば言葉がつながるかを考える。 5. 新出の平仮名の書き方を理解し、正しく書く。 (1) 新出平仮名の練習をする。 ⇒知技(1)ウ (2) 「を」の読み方や使い方を知り、「……を……」の文を考えて書く。	○新たに提出された平仮名10文字を、挿絵と対応させながら意味を考えて声に出して読む。空欄には、どんな文字が入ればよいか、考えて発表する。 ○新たに提出された10文字の平仮名の書き方を理解し、語句としての意味のまとまりを考えながら、正しく書く。 ○花の名前や野菜の名前、虫の名前など、教科書の中から仲間の言葉を取り出させ、知っている言葉を加えていくようにするなど、語彙の拡充と合わせて扱ってもよい。 ○「を」は「オ」と読み、助詞以外で使われることはないが、必ず言葉について言葉どうしをつなぐ役割があることをおさえたい。なお、助詞のはたらきについては、このあとの教材でも扱う機会があるので、少しずつ使い方に慣れさせていけばよい。	◎【知識・技能】身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使っているとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。（〔知識及び技能〕(1)オ） 【思考・判断・表現】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ） 【態度】進んで身近なことを表す語句の量を増し、学習課題に沿って読んだり書いたりしようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
5	1	たのしく よもう 1 あいうえおの うた	△様子を思い浮かべながら、リズムよく音読する。 △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 ⇒知技(1)イ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ⇒◎知技(1)ク	1	1. 言葉のまとまりや意味を考えたり、リズムをつかんだりして、『あいうえおの うた』を楽しく音読する。 2. 一人で読む、斉読する、交代で読むなど、さまざまな形態で音読を楽しむ。 3. 『あいうえおの うた』を視写する。	○範読で、心地よいリズムやアクセント、イントネーションなどを身につけさせる。 ○声をそろえる、あ行、か行と列ごとに交代して読む、教師と交互に読み合うなど、読み方に変化をつけると、繰り返し音読を楽しめる。 ○視写をとおして、平仮名の五十音を正しく書くようにする。 ○全文を視写するのは負担が大きいのので、詩の一部を視写するワークシートを準備するなど、実態に合わせて取り組ませる。	◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク） 【態度】進んで語のまとまりや言葉の響きなどに気を付け、学習の見通しをもって音読しようとしている。
	1	ごじゅうおん	△五十音表を見て、平仮名の学習を振り返るとともに、五十音表の基本的な特徴に気づく。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)ウ	2	4. 五十音表を見て、平仮名を縦に音読したり、横に音読したりする。 5. 書きにくい平仮名や、まちがえやすい平仮名を取り上げて練習する。	○写真の口形を参考にはっきりとした発音、口形、姿勢で読む。縦に読んだり、横に読んだりして、気づいたことを発表する。 ○濁音・半濁音の列も、声に出して読む。	◎【知識・技能】長音、拗音、促音、撥音などの表記の仕方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ） 【態度】積極的に平仮名を読み、今までの学習を生かして五十音表の特徴に気づこうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
5～6	5	けむりの きしゃ	□文章と挿絵を結びつけながら、場面の様子について人物の行動を中心に想像を広げながら読む。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)ウ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ⇒◎知技(1)ク □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。 ⇒◎思判表C(1)イ □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 ⇒思判表C(1)エ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 ⇒思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 ⇒思判表C(1)カ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 ⇒思判表C(2)イ	1	1. 挿絵を見ながら全文を読み、感想を話し合う。	○全文を読む前に四つの場面の挿絵を見て、概要をつかむ。 ○挿絵を見ながら全文を読み、感想を発表する。	◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク）
				2	2. お話のあらすじをつかみ、各場面の挿絵をもとに、あらすじを説明する。	○挿絵をもとに教師がリードしながら、全体であらすじを確認する。やり方がわかったら、自分の言葉であらすじを言い、友達に聞いてもらう。	◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cイ）
				3	3. おじいさんの人柄を考える。 *どんな仕事をしているか *どんな性格の人物か *まきを燃やしたのはなぜか	○場面の様子やおじいさんの行動から、人柄を想像する。 *えんとつそうじとはどんな仕事か *おじいさんは優しい→なぜそう思ったか *挿絵のかまどが真っ赤になっているのはなぜか	【態度】進んで場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉え、学習の見通しをもって登場人物に手紙を書こうとしている。
				4	4. 空へ上っていくのがれぼしと、それを見ているおじいさんの、それぞれの言葉を想像する。	○のがれぼしの言葉から、のがれぼしの感謝の気持ちを想像する。音読の仕方を工夫させるとよい。 ○「」は、会話文につく記号であることを理解させる。	
				5	5. 登場人物に手紙を書き、発表し合う。 *おじいさんに *のがれぼしに *二人に	○登場人物に手紙を書く。物語全体を振り返ってから書かせるようにする。	
	2	のばす おん	△長音の読み方と書き方を理解する。 △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 ⇒知技(1)イ △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)ウ	6	6. 長音の読み方や書き方を理解し、長音の入ったいろいろな言葉を、読んだり書いたりする。	○エ列長音の「とけい」やオ列長音の「おとうさん」のように、表記と読み方が違う言葉がある。何度も読みながら慣れるようにする。特にエ列長音は、「え」で表記するのは「おねえさん」「ええ（応答）」のみで、「い」と表記する特例のほうが多い。児童に慣れさせるためにも、言葉が出てきたときに、そのつど注意を喚起させたい。	◎【知識・技能】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ）
				7	7. P51の長音の入った詩をリズムよく読んだり、視写したり聴写したりする。	○促音と同様、長音も一拍（一拍）を数えることを意識づけたい。言葉を読むときには、手で拍子を取るなど工夫することが大切である。 *おじいさん おじさん *..... *..... ○教科書に提示されたほかにも、長音の入った言葉を用意し、示す。	【態度】積極的に長音の表記の仕方を理解し、学習の見通しをもって読んだり書いたりしようとしている。
6	2 (書く2)	せんせい、あのね	■経験したことや想像したことなどから書くことを見つけ、先生に話しかけるかたちの簡単な文章を書く。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)ウ △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 ⇒◎知技(1)カ △丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れること。 ⇒知技(1)キ ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒◎思判表B(1)ア ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア ☆生活科・特別活動：敬体や方言を使ったり、書いたりした文を見直ししながら、相手にわかりやすいように書いて知らせる。 ☆道徳：友達が書いたもののよいところを見つける。	1	1. 挿絵をもとに見通しをもち、伝えたいことを文に書くことを知る。 (1) 身近なできごとから、伝えたいことを見つけ、簡単な文に書くことを知る。 (2) P52 の文例を読み、視写する。 (3) 文例を参考に、知らせたいことで、思いついたことを発表する。	○初めての文を書く学習である。一人一人と話をし、書きたいことを教師が聞き出しておく。つまずきがちな児童には、教師が聞き取ってメモを取り、それを文に書くように支援する。この段階では、一文が書けたら十分である。	◎【知識・技能】文の中における主語と述語との関係に気付いている。（〔知識及び技能〕(1)カ）
				2	2. 伝えたいことを書く。 (1) 伝えたいことを話し言葉で文に書く。「せんせい、あのね」の書きだして書いてみる。 (2) 書き終わったら、声に出して読み返し、直すところがあれば直す。 (3) 書き終わった人どうしで、交換して読む。	○児童が発表した話し言葉を、そのまま文に表す。書く抵抗をなくすために大事なステップである。 ○最近のできごとの中から伝えたいことを決める。相手を意識を明確にもたせながら、うれしかったこと、がんばったことなど、心に残ったことを思い起こさせる。 ○伝えたいことを全体で話し合ったり、隣どうしで話し合ったりすることで意識を掘り起こし、題材を決めやすくする。 ○例文を参考に話し言葉で書き、友達と交換して読み合う。	◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bア）
					3. 「……は、……へ ……ました。」の文例を読み、ノートに視写しながら敬体の文章になれる。	○児童の書く文章は、「せんせい、あのね……」の口語体のままでよい。練習として、敬体になれる程度にする。	【態度】進んで主語と述語との関係に気付こうとし、学習の見通しをもって簡単な文章を書こうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
6	4 (話す聞く 4)	みんなに はなそう	◇身近なことや経験したことから話題を決め、必要なことを思い出して、順序を考えて話す。 △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 ⇒知技(1)カ △丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れること。 ⇒◎知技(1)キ ◇身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒◎思判表A(1)ア ◇相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えること。 ⇒思判表A(1)イ ◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。 ⇒思判表A(1)エ ◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。 ⇒思判表A(2)ア	1 2・3 4	1. 挿絵を見て、学習のねらいや方法を知る。身近なことや経験したことの中から、どんなことを話するか、話題を考える。 2. 話したいことを絵に描き、それをもとに二文程度の文を作り、話の準備をする。 3. グループで発表し、感想やよいところを伝える。	○話題を決める前に、経験や身近な事を、話し合いながら十分掘り起こす。 *好きな食べ物や得意なこと *できるようになったこと *大切なもの *楽しかったこと など ○最初の一文は、「わたしは、……」「ぼくは、……」で話すようにする。 ○発表の前に、教師は一人一人の話を事前に確認する。 ○発表でつまずきがちな児童には、教師が傍らであいづちをうったり、次の言葉を促したりして、支援することも大切である。 ○話の聞き方を事前に話し合い、約束を決めておくことよい。 ○できるだけ感想を伝えるようにしたいが、心から拍手をするなど、聞く雰囲気作りも大切である。	◎【知識・技能】丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使っている。（〔知識及び技能〕(1)キ） ◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいく。（〔思考力、判断力、表現力等〕Aア） 【態度】積極的に丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付け、今までの学習を生かして身近なことを話そうとしている。
6	1	たのしく よもう がぎぐげごの うた	△様子を思い浮かべながら、リズムよく音読する。 △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 ⇒知技(1)イ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ⇒◎知技(1)ク	1	1. 言葉の意味を考えながら、『がぎぐげごの うた』をリズムよく楽しく音読する。さまざまな形態で何度も音読する。 2. 『がぎぐげごの うた』を視写する。	○範読で、イントネーションやリズムのよさをつかませる。 ○音読する際には、姿勢や口形、声の大きさ、速さに注意しながら読むように声をかける。 ○斉読、が行、ざ行と列ごとに交代で読む、教師と交互に読む、隣どうしで読む、一人で読むなど、音読の形態を変えながら、繰り返し音読する。 ○視写をとおして、濁音・半濁音の文字を正しく書けるようにする。 ○視写が負担にならないように、実態に応じて部分を視写するなどの配慮をする。	◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク） 【態度】進んで語のまとまりや言葉の響きなどに気を付け、学習の見通しをもって音読しようとしている。
6	3 (書く3)	よく みて かこう	■身近なものを観察し、気づいたことを簡単な絵や文で表し、書いたものを読み合って感想を伝え合う。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒◎知技(1)ア ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒◎思判表B(1)ア ■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)オ ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア ☆生活科：観察カードを書く学習に生かすことができる。	1 2 3	1. 身近で育てている植物などをよく見て、絵と文に書くことを知る。 (1) 実際に観察し、特徴や小さな変化に気づく。 (2) 全体の様子や気づいたこと、触った感じや自分の思いなどをカードに書く。 2. 絵に色を塗ったり、文を読み返してまちがいを直したりして、観察カードを完成させる。 3. お互いに書いたものを読み合う。 ・「いいな」と思ったことを書いた人に伝える。	○教師は、めいめいが観察しているところを見て回りながら、特徴や小さな変化に気づいた児童に声をかけ、褒めるようにする。 ○絵を描くことに夢中になりすぎないように、絵を簡単に描くようにし、文を書く時間を確保させるようにする。 ○書く観点やポイントを示す。3文程度を目安とする。 ・日付、曜日を書く ・自分の名前を書く ・全体の様子、よく見て気がついたこと、小さな変化や大きな変化を書く ・自分の願いや思ったことを書く ○読み合う方法は、掲示してもよいし、机上に置いて一人一人が席を移動しながら読み合うかたちもよい。 「いいな」と思ったら、付箋やシールを貼るなどして目に見える形を残すとよい。 ○まだ促音や拗音、助詞の書き方等に慣れていない児童もいる。読み返しても気づかない場合は、事前に教師が直してあげることも必要である。	◎【知識・技能】言葉には、事物の内容を表す働きを伝える働きがあることに気付いている。（〔知識及び技能〕(1)ア） ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bア） 【態度】進んで経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、学習の見通しをもって記録する文章を書こうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
	2	しゃ、しゅ、しょ	△拗音や拗長音の読み方と書き方を理解する。 △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。⇒知技(1)イ △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)ウ	7	5. 清音と拗音との違いに気をつけて、拗音や拗長音の言葉を正しく音読する。 (1) 教師の範読を聞いたあと、音読する。各自で読む、斉読する、縦や横の列ごとに読むなど、変化をつけて楽しく読むようにする。 (2) 「しゃしん」「あくしゅ」「しょつき」をノートに視写する。	○発音しながら挿絵を見て、言葉の意味を確認する。単語を音読したらP66・67の表を読む。縦に読んだり、横に読んだりして拗音の表記や読み方に慣れさせる。 ○拗音の指導は、単語の表記としては定着が難しいので、書く際には、繰り返し注意を促したい。拗音は二文字で一音節（拍）となるため、書くときに「ゃ」「ゅ」「ょ」が脱字となりやすい。手で拍子を取りながら読むなどして、音数と表記の違いに慣れさせる。 *しゃしん あくしゅ ○拗音の「ゃ」「ゅ」「ょ」を書く場所と大きさを、板書でわかりやすく示す。 ○正しく書けているか、友達と確かめ合わせるとともに、机間指導で確認する。 ○拗促音、拗長音は、促音の「っ」、長音がそれぞれ一拍（一音）なので、拗音と組み合わせると二音になる。児童にはできるだけ書いて慣れさせるようにする。 *しょつき しゅっぱつ ぎゅう にゅう びょういん ・ ・ ・ ・	◎【知識・技能】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ） 【態度】積極的に拗音の表記の仕方を理解し、学習の見通しをもって読んだり書いたりしようとしている。
				8	6. 拗音や拗長音を含む言葉を視写したり、言葉を集めたりする。 (例) きょうしつ おちゃ ひょうし など (1) 「びょういん」と「びょういん」の違いに気づき、正しく視写する。 (2) P67の詩を音読し、ノートに視写する。 (3) 拗音の入った言葉を集め、ノートに書く。	○「びょういん」と「びょういん」の違いに気づかせ、教科書のます目に正しい平仮名を入れさせる。 ○P67の詩を読み、拗音や拗長音を含む言葉を見つけさせる。 ○拗音を含む言葉を集めさせる。ノートに書く際は、板書で正しい表記を示すようにする。	
6	1	たのしく よもう 3 きやきゅきよの うた	△様子を思い浮かべながら、リズムよく音読する。 △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。⇒知技(1)イ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。⇒◎知技(1)ク	1	1. 言葉の意味を考えながら、『きやきゅきよのうた』をリズムよく楽しく音読する。さまざまな形態で何度も音読する。 2. 『きやきゅきよの うた』を視写する。	○範読で、イントネーションやリズムのよさをつかませる。 ○音読する際には、姿勢や口形、声の大きさ、速さに注意しながら読むように声をかける。 ○斉読、きや行、しゃ行と列ごとに交代で読む、教師と交互に読む、隣どうして読む、一人で読むなど、音読の形態を変えながら、繰り返し音読する。 ○視写をとおして、拗音の文字を正しく書けるようにする。 ○視写が負担にならないように、実態に応じて部分を視写するなどの配慮をする。	◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク） 【態度】進んで語のまとまりや言葉の響きなどに気を付け、学習の見通しをもって音読しようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
6～7	12 (書く12)	しらせたい ことを かこ う	■身近なできごとから知らせたいことを選び、簡単な文章を書く。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)ウ ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表◎B(1)ア ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ⇒思判表B(1)イ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ ■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)オ ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア ☆生活科・特別活動：敬体や方言を使ったり、書いたりした文を見直しながら、相手にわかりやすいように書いて知らせる。 ☆道徳：友達が書いたもののよいところを見付ける。	1 2 3 4～8 9～11 12	1. 挿絵をもとに単元の見通しをもち、伝えたいことを文に書くことを知る。 (1) 身近なできごとから、伝えたいことを見つけ、簡単な文に書くことを知る。 (2) P70～71を読んで、「誰に」「何を」伝えたいか考える。 (3) 思いついたことを発表する。 2. 伝えたいことを決める。 (1) 前時で話し合ったことを参考に、何を書くか、誰に伝えるかを考える。 (2) 隣どうしで、何を誰に伝えたいか話す。 (3) 全体にも紹介する。 3. 敬体で文を書くことを知る。 (1) P71の文例を読み、「……は、……ました。」のような敬体で書くことを知る。 (2) いろいろな言い方を敬体に直す練習をする。 4. 伝えたい相手を決めて文章を書く。 (1) 伝えたい相手を考えながら二文程度の文を書く。 (2) 題名を決める。 5. 読み返し、交流する。 (1) 書いた文を自分で読み返し、まちがいを直す。句読点や文字のまちがいに注意する。 (2) 書き終わった人どうしで読み合って、よかったところを伝える。 6. 読んだ作品のよいところを伝え合い、自分の作品のよさに気づく。	○既に『せんせい、あのね』『よく みて かこう』の学習で、文を書く経験をしている。ここでは、身近なことから題材を決め、整った文を二文程度書く学習である。 ○題材を掘り起こす段階なので、自由に幾つでも発表させる。 ○最近のできごとの中から伝えたいことを決める。相手意識をもたせ、うれしかったこと、がんばったことなど、心に残ったことを思い起こさせる。 ○伝えたいことを全体で話し合ったり、隣どうしで話し合ったりすることで意識を掘り起こし、題材を決めやすくする。 ○ノートに題材と伝える相手を書く。(題名はまだ決まなくてもよい。) ○いろいろな敬体の言い方を発表し、敬体に慣れておくようにするとよい。 ○誰に何について知らせるか考え、文章を書く。 ○「は」「を」「へ」の使い方や敬体の書き方を確認する。 ○原稿用紙の基本的な書き方を指導する。 ○まちがいがいないか、自分で音読して確かめる。見直す観点を示すようにする。 (観点の例) *伝えたいことが書いてあるか *句読点は正しく書けているか *「です」「ます」が書けているかなど ○お互いに読み合って感想を伝える。(よいところを見つけたら「シール」を貼る。)	◎【知識・技能】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。 (〔知識及び技能〕(1)ウ) ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bア) 【態度】積極的に長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解し、学習の見通しをもって簡単な文章を書こうとしている。
	1	は、を、へ	△助詞の表記と語中の表記とを区別して理解する。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)ウ △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 ⇒知技(1)カ ■簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ ☆生活科：見つけたことや気づいたことを、文章に書く。	13	7. P72・73の提示文を読んで、助詞の「は」「を」「へ」の読み方と書き方を確かにする。 (1) 「は」「を」「へ」の例示された文を音読し、ノートに視写する。 (2) P72のありさんの詩を音読し、「は」「を」「へ」の読み方を確かにする。 8. 助詞の「は」「を」「へ」を使って文を作る。 (1) 全体で話し合って例をあげ、書き方を確認する。 (2) 各自、ノートに文を書く。	○助詞の「は」「を」「へ」については、P35、P39、P53で扱ってきている。最後のまとめの学習として位置づけている。 ○「ワ」「オ」「エ」と読む文字を例文から見つけさせ、助詞については色つきの文字や色紙で区別して示すようにする。 ○視写した語や文を音読して、正しく書けているかを確かめるようにさせる。 ○助詞「は」「を」「へ」は、身につくまで機会を見て繰り返し指導することが大切である。 ○挿絵をもとに考えさせる。各自で文を作る前に教師は児童の意見を吸い上げて、1, 2例板書する。	◎【知識・技能】助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)ウ) 【態度】積極的に助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方を理解し、学習の見通しをもって簡単な文を書こうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
7	4 (書く4)	えにっき	■身のまわりのできごとや経験したことを、絵と文で表現する。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)ウ ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒思判表B(1)ア ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。⇒思判表◎B(1)イ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ ■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。⇒思判表B(1)オ ■日記や手紙を書くなど、思ったことや伝えたいことを書く活動。⇒思判表B(2)イ ☆生活科・特別活動：日常生活の中から、楽しかったことやおもしろかったことを見つける。 ☆道徳：書くことをとおして自分の日常生活を振り返る。	1	1. 学習のねらいと流れをつかむ。 (1) 挿絵を参考にしながら書くことを考え、隣どうしで話し合う。 * 日曜日にしたこと * 楽しかったこと * がんばったこと など (2) 話したことをもとに、文章にすることを全体で確かめる。	○できごとを思い出しやすいように、隣どうしで会話して、書くことを考えるようにする。 ○書くことが焦点化できた組みを指名し、どんなことが話題になったか発表させる。板書を整理しながら、話し合った話題が書くことにつながることを示す。 ○教科書の絵日記を見て、どのようなものを書くのかイメージをもつ。	◎【知識・技能】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ） ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bイ） 【態度】積極的に事柄の順序に沿って簡単な構成を考え、今までの学習を生かして絵日記を書くようとしている。
				2・3	2. 自分の書きたいことを選び、絵日記に書く。 (1) したことのほかにも、思ったことも入れるとよいことを知る。 (2) 前時で話し合ったことを思い出し、題材を決めて絵と文章を書く。	○児童が体験したことの中から、絵日記にして友達に伝えたい事柄を選ぶようにさせる。	
				4	3. 書いた絵日記を読み合い、感想を伝え合う。	○グループ内で交換して読ませ、互いに読み合った足跡が見えるようにする。 * 付箋によりよいところを書いて知らせる * 「いいねシール」を貼る など ○読み合ったあとは、クラス全員が読めるように、教室に掲示するなどの工夫をする。	

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
9	5 (話す聞く5)	なつのおもいでを はなそう	◇相手の話の内容を受けて話したり，自分からすすんで話したりする。 △言葉には，事物の内容を表す働きや，経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。⇒知技(1)ア △音節と文字との関係，アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに，姿勢や口形，発声や発音に注意して話すこと。⇒◎知技(1)イ ◇身近なことや経験したことなどから話題を決め，伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。⇒◎思判表A(1)ア ◇相手に伝わるように，行動したことや経験したことに基づいて，話す事柄の順序を考えること。⇒思判表A(1)イ ◇伝えたい事柄や相手に応じて，声の大きさや速さなどを工夫すること。⇒思判表A(1)ウ ◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き，話の内容を捉えて感想をもつこと。⇒◎思判表A(1)エ ◇紹介や説明，報告など伝えたいことを話したり，それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。⇒思判表A(2)ア ☆生活科：身近な自然や生活経験に興味をもつ。 ☆道徳：自分の生活について話したり，友達の生活について聞いたりして，自分について振り返る。	1 <			

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
9	6	けんかした 山	□場面の様子を想像しながら、お話を読む楽しさを味わう。 △第1学年においては、別表の学年別漢字配当表（以下「学年別漢字配当表」という。）の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。 ⇒◎思判表C(1)イ □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 ⇒思判表C(1)エ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 ⇒思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 ⇒思判表C(1)カ	1	1. 題名や挿絵をもとに、学習のねらいをつかむ。 (1) 山の様子や言葉から、場面を想像して、お話を楽しむ。 (2) 挿絵を見ながら教師の範読を聞き、あらすじをつかんだり、簡単な感想をもったりする。	○題名や挿絵をもとに物語の大体の流れをつかみ、読みのめあてをもたせる。 ○教師の範読を大切にす。特に一年生は耳から聞くことで、音読が上達する。 ○初めに簡単な感想をもたせることで読みの実態が把握でき、次の展開に生かせる。 ○新出漢字の読み方や筆順をおさえておく。	◎【知識・技能】当該学年に配当されている漢字を読んでいる。（〔知識及び技能〕(1)エ） ◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cイ） 【態度】進んで場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉え、学習の見通しをもって考えたことを発表したり文章にまとめたりしようとしている。
				2～5	2. 山のしたことをもとに場面の様子を想像する。 ＊いつもけんかをしている二つの山 ＊どつと火を噴き出す山 ＊雨でしょんぼり顔を見合わせる山 ＊何年何年経ち、緑につつまれる山	○十分に音読をさせる。 ○山がけんかをしたわけについて考える。 ○「しょんぼり」と顔を見合わせた時の山の気持ちを想像する。「しょんぼり」の意味やなぜ顔を見合わせたのかを考えさせる。動作化や劇化が効果的である。	
			□読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 ⇒思判表C(2)イ ☆道徳：けんかした経験を出し合ったり、登場人物の気持ちを想像したりして、相手の気持ちになる。	6	3. 物語でいちばんよいと思ったところ（心に残ったところ）を見つけ、なぜそこがよいと思ったのか考えて発表したりノートに書いたりする。 ・お話をもう一度読んで、すっかり緑につつまれた山に、言ってあげたいことを考えて書く。	○ワークシートに気に入った場面の絵と言葉を書き写す。なぜ、そこが気に入ったかを言えることが大事である。 ○お話全体を振り返って感想を書かせたり、登場人物に手紙を書かせたりする。	
	2	(みんなで たのしく よみましょう。)	□役割を決めてグループで音読する。 △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ⇒◎知技(1)ク □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。 ⇒思判表C(1)イ □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 ⇒思判表C(1)エ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 ⇒思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 ⇒◎思判表C(1)カ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 ⇒思判表C(2)イ	7	4. 音読発表会の準備をする。 (1) どんな会にするか、誰を招待するか話し合う。 (2) 登場人物を確認し、グループで役割を決めて音読の練習をする。	○児童それぞれが、「聞いている人が楽しくなるように読む」などのめあてを決め、意欲を高める。 ○保護者や地域のかたを招待するなど、教師は前もって準備を進めておく。 ○今までの学習が生きる音読になるように、教師もグループを回って助言したり、上手なところを褒めたりする。	◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cカ） 【態度】進んで文章を読んで感じたことを共有し、学習の見通しをもって役割を決めて音読しようとしている。
				8	5. 音読発表会をする。 (1) 発表会のときに気をつけることを確認する。 ＊発表者として ＊聞き手として ＊招待したかたがたに対して (2) 発表会をする。	○音読発表の前に、どんなところを工夫して読むか、などのセールスポイントを発表させる。 ○発表のよいところを見つけ、感想を伝えさせる。 ○招待者がいる場合は、最後に何人かに感想を言っていただくよ。	
	3	かん字の はじまり	△漢字には、絵からできたものとしるしからできたものがあることを理解する。 △第1学年においては、別表の学年別漢字配当表（以下「学年別漢字配当表」という。）の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ	9	6. 漢字の成り立ちに関心をもち、「山」「月」「木」の漢字を、正しく読んだり書いたりする。	○『けんかした 山』の「山」「日」「月」「木」の読み方を確認する。 ○それぞれの漢字を絵、絵文字、文字と結びつけさせ、絵からできた漢字であることを理解させる。 ○P105の文章を読み、「山」「月」「木」の書き方を練習させる。	◎【知識・技能】当該学年に配当されている漢字を読んでいる。（〔知識及び技能〕(1)エ） 【態度】進んで当該学年で配当されている漢字を読み、学習の見通しをもって読んだり書いたりしようとしている。
				10	7. 「上」「下」の漢字を、正しく読んだり書いたりする。	○「上」と「下」の絵文字を比べ、違いについて話し合わせる。 ○「上」と「下」の書き順を練習し、正しく書いたり、漢字を使った文を書かせたりする。 ○「上」「下」はしるしからできた漢字（指事文字）であることを理解させる。	
				11	8. P107の上段に示された漢字が、どの絵と対応するか確かめ、漢字の由来を理解する。	○六つの漢字の書き順を確認し、ノートなどに正しく書かせる。 ○絵文字を見て、それぞれどのようにしてできた漢字か、言葉で説明させる。 ○新出漢字を使ってできる文や文章を、読ませたり書かせたりする。	

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
9	7	だれが、たべたのでしょうか	□問いの文と答えの文や写真と文の対応に気をつけながら、動物の食べ跡について説明した文章を読む。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。⇒知技(1)ウ △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。⇒◎知技(1)カ □時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。⇒◎思判表C(1)ア □文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。⇒思判表C(1)ウ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。⇒思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。⇒思判表C(1)カ □事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動。⇒思判表C(2)ア	1	1. 題名を読んで、「誰が」「何を」食べたのかを考えるなどして、学習への意欲をもつ。 2. 題名と9枚の写真を手がかりに、この文章が説明していることの大体をつかむ。	○「誰が」「何を」食べたのかに着目させながら、問いと答えの文や写真との対応に注意して読むよう意識づけ、意欲を高める。 ○題名から、「誰が」を明らかにすることが、この文章の中心であることに気づかせる。 ○9枚の写真が、木の葉や実と動物で構成されていることに気づかせる。 ○野山で暮らす動物の食べ跡についての興味を高め、この文章を学習していく意欲を高めたい。 ○音読をとおして、意味のまとまりを理解させるようにしたい。	◎【知識・技能】文の中における主語と述語との関係に気付いている。（〔知識及び技能〕(1)カ） ◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cア） 【態度】積極的に時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉え、学習の見通しをもって分かったことや思ったことを話そうとしている。
				2～4	3. 問いと答えの文や写真との対応に気をつけながら、食べ跡と食べた動物やその食べ方を読む。	○P108～110を読み、次のことをおさえる。 ＊写真中の、くるみの殻と穴のあいたくるみの殻 ＊誰が＝ねずみが ＊食べ方＝殻に穴をあけて、中身を食べる（「あなのあいたもの」が落ちている訳） ○P111・112を読み、次のことをおさえる。 ＊写真中の、松ぼっくりとまわりだけがかじられた松ぼっくり ＊誰が＝りすが ＊食べ方＝まわりだけを食べて、芯を残す（「まわりだけが、かじられたもの」が落ちているわけ） ○P113・114を読み、次のことをおさえる。 ＊写真中の、木の葉の食べられた部分 ＊ねずみやりすの場合から予想して、これも誰かの食べ跡だと考えられること→誰が＝むささびが ＊食べ方＝木の葉をかみ切って食べる。真ん中だけを食べることもある（「ちぎれた木のは」が落ちているわけ）	
				5	4. 写真の食べ跡の特徴を話し合ったり、食べ方を想像したりして、動物の暮らしについて話し合う。	○P115を読み、くるみ・松ぼっくり・木の葉の場合と比べて考え、写真の食べ跡の特徴を話し合ったり、食べ方を想像したりして、動物の暮らしに対する興味を高めるようにする。	
				6・7	5. 動物について知っていることや絵本・図鑑などで調べたことを、問いと答えからなる簡単な文章で書き、紹介し合う。	○巻末付録「1ねんせいでのよみたいほん①」の中の『だれだかわかるかい？むしのかお』『どうぶつのあしがたずかん』を用いてもよい。 ○簡単な絵も添えてカードを作り、カードの表に問い、裏に答えのように構成して、問いと答えの対応を意識させるとよい。	

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
9～10	13 (書く13)	たのしかったことをかこう	■日常生活の中から書くことを見つけ、簡単な文章を書く。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)ウ ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒◎思判表B(1)ア ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。⇒◎思判表B(1)イ ■語と語や文と文の続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ ■文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文の続き方を確かめたりすること。⇒思判表B(1)エ ■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。⇒思判表B(1)オ ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きたことを書く活動。⇒思判表B(2)ア ☆生活科：見つけたことやおもしろかったことなどをメモしておく。 ☆道徳：友達や自分のよいところを見つける。	1	1. 学習の見通しをもつ。 (1) P116・117の挿絵や本文から、心に残ったできごとを思い出し、文章を書くことを知る。 (2) 学校や家でのできごとで、楽しかったことやがんばったことなどを発表する。 (3) P117の「ここが だいじ」を読んで、文を書くのに、どんなことを思い出したらよいか気づく。	○P116の挿絵を見て、何をしているところか話し合い、自分の経験を想起させるきっかけにする。 ○自分の楽しかったことやおもしろかったことを全体で話し合ったり、隣どうして質問し合ったりする。	◎【知識・技能】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ）
				2	2. 文の書き方を知る。 (1) P117の「ここが だいじ」を確かめる。 (2) 文を書いたら、友達と読み合うことを知る。	○「ここが だいじ」に示された内容を掲示し、書くときに参考になるようにしておく。 ○児童が気づいたり、見つけたりしたことを板書し、文章を書くときに生かせるようにする。	◎「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bア）
				3	(3) P118・119の例を読み、どんな文を書くのかイメージをもつ。 (4) 「」の使い方や題名、名前の書き方などを確認する。 (5) 「ここが だいじ」が例示の文章にどう生かされているか、確認する。	○題名、名前、「」の書き方を掲示しておき、常にかめられるようにする。 ○例示された文章を読んで、したこと、見たこと、話したことや聞いたこと、思ったことのどれかが入っていることに気づかせる。	◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bイ）
				4	3. 文章を書く。（話題設定・構成） (1) 文章に書く内容を決める。 (2) 書く題材が決まったら、書きたいことを思い出してメモやカードなどに書く。	○これまでの学習を振り返って、書きたい事柄やできごとについて隣どうして紹介し合い、題材を決める。 ○書きたい事柄を、一文ずつメモやカードに書くよう指導する。	【態度】進んで経験したことから書くことを見付け、学習の見通しをもって文章を書くようにしている。
				6～10	4. 文章を書く。（記述・推敲） (1) メモやカードを並べて、書く順番を決める。 (2) 原稿用紙の書き方を知る。 ＊題名 ＊名前 ＊書き始めの一字下げ ＊会話の「」 ＊読点の打ち方 など (3) メモをもとに文章を書く。分量のめやすは、本文だけで100字程度。 (4) 書いたら読み返す。まちがいがあれば直す。	○メモやカードを順番に並べたり、整理したり、つけたしたりして書く準備をする。 ○書き始めは一ますあけることや、「」の書き方を、例示の文章をもとに確認する。 ○なかなか書けない児童には、個別に支援を行う。 ○書き終わったら、必ず読み返し、推敲する習慣をつけることが大切である。	
				11～13	5. 書いた文章を交流する。 (1) 書いた文章を発表する。 (2) 友達のよいところを見つけて伝え合う。	○よいところを見つける観点を確認する。 ○シールやひと言感想を書いた付箋を貼る。 ○友達の文章についてよいところを伝え合い、互いに自分のよさに気づくようにする。	

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
10	2	かぞえうた	△数え歌をもとにして、漢字を使った数の読み方に慣れるようにする。 △第1学年においては、別表の学年別漢字配当表（以下「学年別漢字配当表」という。）の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)エ △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。⇒知技(1)オ △長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付くこと。⇒◎知技(3)イ ☆音楽科：手拍子などで拍子を取りながらリズムよく読む。	1	1. 言葉の意味を考えながら、リズムよく音読する。	○絵を指さしながら、ものと数を確かめさせる。 ○全員で、一行ずつ、交互に、グループでなどさまざまな形態で音読を楽しめるようにする。	◎【知識・技能】当該学年に配当されている漢字を読んでいる。（〔知識及び技能〕(1)エ） ◎【知識・技能】長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付いている。（〔知識及び技能〕(3)イ） 【態度】進んで言葉遊びに親しみ、学習の見通しをもってリズムよく音読しようとしている。
	3	かぞえよう	△一から十までの漢数字を正しく読み、書く。 △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。⇒知技(1)イ △第1学年においては、別表の学年別漢字配当表（以下「学年別漢字配当表」という。）の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)エ △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。⇒知技(1)オ ☆算数科：正しい読み方で十までの数を数える。個数や順番を正しく数えたり表したりする。	3	3. 数を表す漢字を声に出して読んだり書いたりすることを知る。新出漢数字を書き順に気をつけて正しく書く。	○漢字カードを作成し、読み方や書き順、字形がよくわかるようにしておく。 ○『かぞえうた』の読み方と、漢数字の読み方との違いを確認する。	◎【知識・技能】当該学年に配当されている漢字を読んでいる。（〔知識及び技能〕(1)エ） 【態度】進んで漢字を読み、学習の見通しをもって文や文章の中で使おうとしている。
				4	4. P122・123を見て、一から十までの漢数字を声に出して読む。挿絵を見ながら、助数詞をつけて漢数字を声に出して読む。	○漢数字の数え方を声に出して練習したり、数を変えたと助数詞の言い方が変わったりすることに気づかせる。	
				5	5. 漢数字を使って短い文をつくり、ノートに書いて発表し合う。	○漢字の書き順を空書きさせ、正しく書けているか確認する。 ○身のまわりのもので、助数詞を使った短文を作らせる。 ＊おにぎりを一こ食べた。 ＊ひまわりの種を五つぶもらった。 ＊猫を三びき、犬を一びき飼っている。 ○作った短文を交換して読み合い、漢数字の読み書きや助数詞の使い分けの練習をさせる。	

令和5年国語科評価規準 第1学年

単元・教材のねらいと、「学習指導要領」に示された「指導事項」「言語活動例」から、あてはまるものを表示。重点指導事項には、◎を付した。
△知識・技能 ◇話すこと・聞くこと ■書くこと □読むこと ☆他教科との関連

- 〔第1学年及び第2学年〕目標（「学びに向かう力，人間性等」の単元目標）
(1) 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに，我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
(2) 順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い，日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えをもつことができるようにする。
(3) 言葉がもつよさを感じるとともに，楽しんで読書をし，国語を大切にしたい，思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
10	2	しを よもう あめの うた	□定型から生まれるリズムや響き，オノマトペからのイメージの広がりをとおして詩を楽しむ。 △身近なことを表す語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き，語彙を豊かにすること。 ⇒知技(1)オ △話のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ⇒◎知技(1)ク □場面の様子に着目して，登場人物の行動を具体的に想像すること。 ⇒◎思判表C(1)エ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして，内容や感想などを伝え合ったり，演じたりする活動。 ⇒思判表C(2)イ	1・2	1. 雨（の音）について交流し合う。 2. 斉読したり，一人読みをしたり，音読を繰り返す。 3. 二連の，雨が当たった物と，そこから響いてくる音のイメージを話し合う。 4. 自分だったら，どんな音をイメージするか発表し合う。 5. オノマトペの部分や当たる対象（「やね」「つち」「かわ」「はな」）を換えて，自分たちの「あめの うた」の詩を作り，発表し合う。	○音読を繰り返して，音読を楽しむ。ペアやグループ，全体など組み合わせを工夫する。 ○言葉の楽しさとともに，どんな様子かを思い浮かべながら音読させる。	◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において，場面の様子に着目して，登場人物の行動を具体的に想像している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Cエ） 【態度】進んで言葉の響きなどに気を付けて，学習の見通しをもって音読しようとしている。
10	6 (書く6)	見つけたよ，いきもののひみつ	■生き物とふれ合ったことや見聞きしたことを思い出して書く。 △長音，拗音，促音，撥音などの表記，助詞の「は」，「へ」及び「を」の使い方，句読点の打ち方，かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また，平仮名及び片仮名を読み，書くとともに，片仮名で書く語の種類を知り，文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)ウ ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け，必要な事柄を集めたり確かめたりして，伝えたいことを明確にすること。 ⇒◎思判表B(1)ア ■自分の思いや考えが明確になるように，事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ⇒思判表B(1)イ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら，内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ ■身近なことや経験したことを報告したり，観察したことを記録したりするなど，見聞きしたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア ☆生活科：観察カードを書く活動などに生かすことができる。	1 2・3 4・5 6	○学習の見通しをもつ。 決めよう・集めよう（重点） 1. 生き物とふれ合ったことや見聞きしたことから，伝えたい生き物を決める。 組み立てよう 2. よく思い出して，メモに書く。 書こう 3. メモに書いたことから，伝えたいことを選び，書く。 ○学習を振り返る。	○生活科と関連させて生き物を観察・飼育させたり，高学年に協力を仰ぎ，学校で飼育している生き物と触れ合ったりする経験をさせておきたい。 ○生き物とふれ合ったことや見聞きしたことなどを想起させる。 ○P9上段の観点「様子」「動き」「思ったこと」を確認し，マークをつけてメモに書く。マークは実態に合わせ，オリジナルのマークを示してもよい。この学習以降，または他教科の学習でも統一したマークを使用し，定着させたい。 ○メモに「短い文で」書くことが重要。長い文で書いてしまう児童も見受けられるが，徐々に短く書くことにも慣らしていきたい。 ○メモに書いたことの全てを書く必要のないこととおさえ，いちばん伝えたい「ひみつ」を中心に書くよう指導する。 ○めあてにそって，振り返られるようにする。	◎【知識・技能】長音，拗音，促音，撥音などの表記，助詞の「は」，「へ」及び「を」の使い方，句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ） ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において，経験したことや想像したことなどから書くことを見付け，必要な事柄を集めたり確かめたりして，伝えたいことを明確にしている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Bア） 【態度】積極的に経験したことから書くことを見付け，学習の見通しをもって文章を書こうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
10 ～ 11	15 (書く10)	一 かかれて いる こと を たしかめよう	□■自動車の「やくわり」と「つくり」に気をつけて読み、乗り物のことを紹介する文章を書く。				
10	5	はたらく じどう車	□「やくわり」と「つくり」に気をつけて、はたらく自動車について説明した文章を読む。 △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 ⇒◎知技(1)オ △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 ⇒知技(1)カ △丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れること。 ⇒知技(1)キ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ⇒知技(1)ク △共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア □時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。 ⇒◎思判表C(1)ア □文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。 ⇒◎思判表C(1)ウ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 ⇒思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 ⇒思判表C(1)カ □事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動。 ⇒思判表C(2)ア	1 2～5	○単元について話し合い学習の計画を立てる。 確かめよう 1. 書かれていることの大体をつかむ。 出てくる自動車の名前やその自動車のことで知っていること、もっと知りたいことを発表し合う。 考えよう 2. はたらく自動車の特徴をノートにまとめる。 (1) それぞれどんな「やくわり」があるか。 (2) 「やくわり」に合わせた「つくり」はどんなか。 それ以外の乗り物はどうか、興味を高めておく。 深めよう 3. それぞれの自動車の「やくわり」と「つくり」のつながりを説明する。 (1) ノートにまとめたことをもとに、はたらく自動車の「やくわり」と「つくり」について、友達に説明する。 (2) 説明を聞いて、よかった点などを伝え合う。 ○学習を振り返る。	○単元名やリード文から学習の見通しをもつ。 ○写真と文を対応させながら読む最初の段階として、それぞれの自動車の写真を見ながら、知っていることや、もっと知りたいことを発言させるとよいだろう。その際、自動車の「やくわり」や「つくり」についての気づきを板書で整理するとよいだろう。 ○どの自動車も「やくわり」と「つくり」が書かれていることに気づかせ、表にまとめる。 ○本文には「やくわり」「つくり」の言葉は使われていないので、「バス」の段落で「やくわり」と「つくり」に対応する文と意味を明確にしておくことが必要。 ○表のまとめ方は教科書を参考にしながら、身近な言葉で書かせる。(前単元で学習したカードの書き方を生かす) ○このような「やくわり」があるので、このような「つくり」になっている、という話し方ができるように指導するとよいだろう。	◎【知識・技能】身近なことを表す語句の量を増し、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。(〔知識及び技能〕(1)オ) ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cア) ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cウ) 【態度】進んで時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉え、学習の見通しをもって分かったことを説明しようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
11	5 (話す聞く 5)	えを見て おはなししよ う	◇絵を見て話題を見つけ、友達と話したり、友達の話を受けて答えたりする。 △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 ⇒知技(1)イ △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 ⇒◎知技(1)オ ◇身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒◎思判表A(1)ア ◇相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基いて、話す事柄の順序を考えること。 ⇒思判表A(1)イ ◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。 ⇒思判表A(1)ウ ◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。 ⇒思判表A(1)エ ◇互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐこと。 ⇒思判表A(1)オ ◇尋ねたり応答したりするなどして、少人数で話し合う活動。 ⇒思判表A(2)イ	1 2・3 4・5	○教材名を読んで学習の見通しをもつ。 決めよう・集めよう（重点） 1. みんなで話し合って、それぞれのうさぎに名前をつける。 ・提示された絵を見て、場面の設定や状況をつかみ、話題を見つけて対話する。 2. 好きなうさぎになって、自己紹介をし合う。 ・話題にしたいことを選んでカードに書く。 3. それぞれのうさぎの言葉を考えて話す。 ・二人組を作り、カードをもとに対話する。 ○学習を振り返り、感想を書いたり伝え合ったりする。	○家族構成や状況、予想できること、人物の性格など絵から読みとらせ、対話する。 ○板書に挿絵の拡大したものを提示する。 ○カードに書くときは、大事なことをメモ形式で書く。 ○ペアの交流から、相手を変えているいろいろな人と対話できるようにする。尋ねたことを、絵の中から探して答えたり、絵の人物がこの後どうするかを互いに考えて話し合ったりする。 ○カードに書いてないことも、進んで話すようになれるとよい。 ○全体交流で、話したり聞いたりして、学習の自己評価をさせる。	◎【知識・技能】身近なことを表す語句の量を増し、話の中で使っているとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。（〔知識及び技能〕(1)オ） ◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。（〔思考力、判断力、表現力等〕Aア） 【態度】進んで話題を決め、学習課題に沿って少人数で話し合おうとしている。
11	2	かん字の ひろば ① 日づけと よう日	△日付と曜日を表す漢字を正しく読む。 △第1学年においては、別表の学年別漢字配当表（以下「学年別漢字配当表」という。）の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 ⇒知技(1)オ	1 2	○学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 1. 今日は、何月何日かを確かめ、日付の読み方を考える。 2. カレンダーから曜日の漢字を集め、読み方について話し合う。 3. 日付や曜日の読み方に慣れる。 4. 「日づけのうた」と「よう日のうた」を楽しく唱える。 ○学習を振り返る。	○日付と曜日を表す言葉や漢字を使った書き方を知るという学習課題を確かめ、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。 ○声に出して読んだり、ノートに書いたりして日付の読み方を理解できるようにする。 ○上巻P122「かぞえよう」で学習した「ひとつ」「ふたつ」「みつつ」などの読み方と、日付の読み方を見比べ話し合う。 ○日付を使って短い文を作り、発表し合う。 ○曜日を漢字で記載しているカレンダーをもとに、曜日の漢字を集め、読み方を理解できるようにする。 ○日曜日から土曜日までのひとまとまりの七日間を「1週間」と呼ぶことを確認する。 ○「1年間」を12に分けた、その一つ一つを「1か月」と呼ぶことを確認する。 ○カレンダーをもとに、「大の月」「小の月」を確かめる。 ○誕生日や学校行事・年中行事などに関係する月日を集め、短い文を作り、発表し合う。 ○日付や曜日の歌を楽しく唱えながら、語句の意味やまとまりに気づくことができるようにする。	◎【知識・技能】当該学年に配当されている漢字を読んでいる。（〔知識及び技能〕(1)エ） 【態度】積極的に漢字を読み、学習課題に沿って音読しようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
11	2	かたかな	△片仮名の書き方や使い方に慣れ、正しく使う。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)ウ △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。⇒知技(1)オ	1	○学習内容を理解し、日常化への見通しをもつ。 1. P58を参考に、片仮名で書く言葉を発表したり、自分でも仲間ごとに言葉を集め、ノートに書いたりする。 2. まちがえやすい字形の片仮名を、書き順や形に気をつけて書く練習をする。 3. 片仮名の濁音と半濁音、長音や拗音の言葉を読んだり書いたりする。 ○学習したことを振り返る。	○教材冒頭の会話文によって、日常の言語生活との関連を意識づける。 ○教材の例文のように、身近な言葉の中に片仮名で書くものがあることに気づかせる。また、ほかにもどのようなものがあるか自分たちであげさせることにより、片仮名をより身近に感じて学習することができるようにする。 ○似た字形の片仮名を正しく書き分けることが重要である。まちがえずに書くために、書き順や字形やはらいの方向などを、確認しながら覚えさせるように指導することを心がけたい。 ○片仮名の濁音と半濁音、長音や拗音の読み方や書き方を教師が示しながら指導をする。 ○自分で自由に探す際に、拗音（「チャ・チュ・チョ」など）で書く場合、発音させながら書かせることが効果的である。読み方と書き方が一致させるように指導することを心がけたい。 ○書かせる際には、ノートのます目を上手に利用し、片仮名の形や拗音・長音を書く位置などにも気をつけさせる。	◎【知識・技能】片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ） 【態度】積極的に片仮名を読み、見通しをもって読んだり書いたりしようとしている。
12	2	かん字の ひろば ② かん字の よみかた	△漢字には、使い方によって読み方が変わるものがあることを理解する。 △第1学年においては、別表の学年別漢字配当表（以下「学年別漢字配当表」という。）の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)エ △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。⇒知技(1)オ	1	○学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 1. 「山のぼり」「ふじ山」を声に出して読み、「山」の読み方の違いを考える。 2. 「日」に、いろいろな読み方があることを理解する。 3. 「山」「日」を使った言葉を集め、それぞれにどんな読み方があるかを確かめ、話し合う。 2	○漢字には、読み方が一つだけではないものがあることを理解する学習課題を確かめ、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。 ○「山」のように、他の言葉や漢字とのつながりで読み方が変わることがあることに気づくことができるようにする。 ○「日」に、いろいろな読み方があることに気づくことができるようにする。 ○集めた言葉を使って短い文を作り、発表し合うようにする。 ○「竹」「糸」「左」「人」「生」のそれぞれの読み方を確かめる。 ○他の言葉や漢字とのつながりで漢字の読み方が、変わる例を既習漢字から探し出し、短い文を作り、発表し合うようにする。 ○P169「一上で 学んだ かん字」、P164「かん字を学ぼう」を参考にするとよい。	◎【知識・技能】当該学年に配当されている漢字を読んでいる。（〔知識及び技能〕(1)エ） 【態度】進んで漢字を読み、今までの学習を生かして使い方によって複数の読み方がある漢字を知ろうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
1	1	しを たのしもう ゆき	△言葉が生み出すイメージの広がりや、音読をとおして、詩を楽しむ。 △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。⇒知技(1)オ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。⇒◎知技(1)ク □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。⇒◎思判表C(1)エ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。⇒思判表C(2)イ	1	1. 雪について、知っていることを発表する。 2. 各自音読を繰り返し、作品に対する感想を発表する。 3. 連ごとにイメージを発表し合う。 4. 「ゆき」の様子を思い浮かべながら自由に音読し、発表し合う。	○今までの雪との経験から、雪を見たり、雪遊びをしたりしたことなどを自由に発表させる。 ○繰り返し音読して言葉のリズムをつかませる。 ○初雪から春への季節の変化を確かめる。気温の変化については、説明してもよい。 ○「きゅっきゅ」「のしのし」「ずんずん」のオノマトベの部分をどのように音読するか、状況が感じられるようにそれぞれに工夫させたい。	◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ） 【態度】進んで言葉の響きなどに気を付けて、学習の見通しをもって音読しようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
1	14 (書く5)	四 ぶんしょうと えを あわせて よもう	□文章と絵の対応に気をつけながら読み、いろいろな身ぶりが表すことを説明する文章を書く。				
		みぶりで つたえる	△言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒◎知技(1)ア △丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れること。 ⇒知技(1)キ △共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ⇒思判表B(1)イ □時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。 ⇒思判表C(1)ア □文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。 ⇒思判表C(1)ウ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 ⇒◎思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 ⇒◎思判表C(1)カ ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見開きしたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア □事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動。 ⇒思判表C(2)ア ☆総合的な学習の時間・生活科など：日常生活の中で使う身ぶりについて振り返り、気持ちを相手に伝える際に役立てる。	1 2 3～5 6・7 8～12 13・14	○単元名やリード文から学習の見通しをもつ。身ぶりや手ぶりのことで知っていることや、本文の中に書かれているものの中で、自分が行ったことのあるジェスチャーについての話をする。 確かめよう 1. 書かれていることの大体を確かめる。 (1) 挿絵に番号をつける。 (2) どの文がどの絵のことを説明しているのか、確かめる。 考えよう 2. 文章と絵から話していることを想像する。 (1) P95までの絵にふきだしをつけて、どんなことを伝えようとしているかを書く。 (2) 書いたことを友達と読み合う。 深めよう 3. 日常生活の中にある身ぶり手ぶりについて考える。 ・日常生活の中で、どんな気持ちのときにどんな身ぶりをしているか、経験を話し合う。 広げよう 4. 身ぶりについて考え、説明する文章を書く。 (1) 日常生活の中にある身ぶり手ぶりを説明する文章を、絵を交えて書く。 (2) 友達と、書いたものを読み合う。 5. 言葉のはたらきと身ぶりのはたらきを比べて、考えたことを話し合う。 ○学習を振り返る	○文章と絵の対応に気をつけながら、身ぶりについて説明する文章を書くという学習の流れを意識づけ、意欲を高める。 ○文章と絵の対応を明確にするために、絵と文章の対応する部分を線で囲むなどして確認するとよい。 ○絵に対応する表現をおさえ、人物の気持ちを確認する。 ○ふきだしを作って人物の気持ちを書き込む際は、教科書の表現を抜き出すだけでなく、さまざまな表現を認めてよい。例えば、「静かにしよう」「静かにするんだよ」「しいっ、静かに」など。 ○身ぶりを使うと伝えたいことをはっきり表せるようになることを理解させる。身ぶりが伝える内容だけでなく、伝える効果についても考えることができるようにする。 ○日常生活での経験を話し合う中で、身ぶりで表せることと表せないことがあることに気づかせる。 ○身ぶり手ぶりを説明する文章を書く際、「どんな場面」「どんな身ぶりをする」「どんな気持ちを表すか」をおさえるようにする。ただし、この区別をあまり厳密にすると、難しすぎる課題になるので注意する。 ○「せりふ」→「身ぶりが表すこと」→「身ぶりを使うことのよさ」と展開する文章のひな形を黒板に貼り、それに倣って書くことができるようにする。 ○身ぶりとその身ぶりで伝わる意味を表などにまとめ、学習を振り返るようにする。 ○学習感想を書くことをとおして各自の考えをはっきりさせ、読み合って、考えを深めさせるようにする。	◎【知識・技能】言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。（〔知識及び技能〕(1)ア） 【思考・判断・表現】「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bイ） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cオ） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cカ） 【態度】積極的に文章の内容と自分の体験とを結びつけて、学習課題に沿って考えたことを文章にまとめようとしている。

[illegible]

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
2	3	ことばで つたえよう	△目の前にあるものや経験したことなどを言葉を使って言い表し、言葉の便利さやおもしろさなどを理解する。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒◎知技(1)ア △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 ⇒知技(1)オ	1	○「言葉」について学ぶという学習内容を理解して、学習の見通しをもつ。 1. P110の絵を参考に、自分が食べたものを思い出し、自分の経験をもとにすることを理解する。 2. 自分の描いた絵から食べ物の様子を思い出し、なるべく詳しく言葉で説明を書く。	○自分が食べた物を言葉で言い表すことにより、感覚を伴った自分の言葉で表現することに気づかせる。 ○説明したいものの絵を描きながら、絵に描いたものはどのように表現すればいいのか、色や味など表現したいものはなんなのかを焦点をはっきりさせるように声をかける。 ○絵を見ながら、食べたときのことを思い出して、そのものの説明の言葉なるべく詳しく書かせるようにする。	◎【知識・技能】言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。（〔知識及び技能〕(1)ア） 【態度】進んで、言葉には事物の内容を表す働きや経験したことを伝える働きがあることに気付こうとし、学習課題に沿って言葉で表そうしている。
				2	3. 書いた説明の文を見て、色や形などの見えるものの説明と味や食感などの見えないものの説明を分け、二種類の言葉の違いを考える。 4. 自分が描いた絵を見せながら食べたものの様子を発表し、伝える。	○説明の文を読ませて、色や形など絵に描いてあることからわかりやすいものと、味や食感など絵を見ただけではわかりにくいものがあることに気づかせる。 ○二種類の言葉をうまく使いながら、聞いている人に伝わるように発表をするよう促す。	
				3	5. 好きな食べ物などを思い浮かべ、問題を作る。 6. 絵に描けないものでも言葉では伝えることのできるおもしろさに気づき、いろいろなものを表現することに挑戦する。 ○学習したことを振り返る。	○自分が好きな食べ物を選ぶことで、想起しやすく、楽しく表現できるようにする。 ○問題を作りながら、絵には描けなくても感覚を思い出しながら表現できる言葉のおもしろさに気づかせ、いろいろなものを表現したいという気持ちを引き出す。	

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
2	8 (書く8)	六 つたえたい ことを おもい出して かこう	■経験したことや見たことを思い出し、わかりやすい文章を書く。				
		おもい出の アルバム	△長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)ウ △共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(1)ア ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ⇒思判表B(1)イ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)ウ ■文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。 ⇒◎思判表B(1)エ ■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。 ⇒◎思判表B(1)オ ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア	1	○「学習の進め方」を読み、学習の見通しをもつ。	○1年間の思い出が振り返られるように工夫する。 ・1年間の主な学習や行事などの題名を掲示する。 ・写真等を見られるようにしておく。 ○「いつ」「どこで」「誰が」「何をしたか」という聞く観点を示して、範読を聞かせる。 ○学級の実態に合わせ、書く目的を確認し、伝える相手を決める。	◎【知識・技能】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ）
				2～5	決めよう・集めよう 1. 伝える相手を決め、伝えたいことを一つ選ぶ。	○自分がこれまでにしたことや見たことを想起させ、書きたいと思うことをメモに書かせる。 ○題材選びは大切である。写真を見ながら会話したり、ペアで題材を相談させたりして書きたいことを見つけさせる。見つけれない児童には、丁寧に個別指導する。	◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ）
				6・7	書こう・読み返そう（重点） 3・4. メモをもとに文章を書き、読み返す。	○1年間の学習したことを活用して書けるよう既習事項（P9メモの活用。P21・22対話による推敲。P22, 63推敲）を想起させる。推敲については、P162も参照させる。 ○自分の書いたメモの内容と順序で、文章が書けるか、考えさせる。書けないと判断した場合は、メモを増やしたり題材を変えたりさせる。	◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、文章を読み返す習慣を付けているとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりしている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bエ）
				8	伝え合おう（重点） 5. 文章を読み合う。 (1) 友達同士で読み合う。 (2) 伝えたい相手に読んでもらう。	○友達の文章のよさに着目させ、感想を伝える。付箋紙に書かせて残すようにしてもよい。あらかじめ、内容面や記述面のよさついて、観点を示しておくともよい。次の学習につながるよう、何人かの文章を取り上げ、文章のよい点を共有するようにさせる。 ○友達以外の相手を設定したときは、相手に読んでもらい、できる限り感想をもらえるようはたらきかける。 ○相手からもらった感想をもとに、自分の文章を振り返らせる。次への展望や意欲へつなげたい。	◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bオ） 【態度】積極的に文章に対する感想を伝え合い、学習の見通しをもってよいところを伝え合おうとしている。
					○学習を振り返る。		

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
2	3	かん字の ひろば ④ にて いる かん字	△形の似た漢字を正しく読んだり、書いたりする。 △第1学年においては、別表の学年別漢字配当表（以下「学年別漢字配当表」という。）の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ △共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア	1	○学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 1. 「人」と「入」の形の似ているところ、違うところを考える。 2. 「木」と「水」, 「字」と「学」, 「右」と「石」の似ているところと違うところを話し合い、字形に気をつけて、正しく書く。	○形の似ている漢字を正しく使い分け、書くことができるようにするという学習課題を確かめ、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。 ○文例を声に出して読み, 「人」「入」を使った言葉を集めて、発表する。 ○筆順を確認し, 字形の類似点と相違点を見つけ出し, 「なぜ違うのか」などと探究心を刺激しながら指導を進めるようにする。 ○「木」と「水」, 「字」と「学」, 「右」と「石」など、概形が似ている漢字の異同に注意を向け、筆順に従って正しく書くことができるようにする。	◎【知識・技能】当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。 （〔知識及び技能〕(1)エ） 【態度】積極的に漢字を読み、学習課題に沿って形の似た漢字を正しく読んだり書いたりしようとしている。
				2	3. 字形の一部に同じ部分が含まれている漢字があることに気づき、仲間集めをする。 4. 「十」と「七」, 「力」と「九」, 「上」と「土」, 「山」と「出」, 「本」と「文」, 「月」と「目」の似ているところと違うところを確かめ、字形に気をつけて、正しく書く。	○「大―大」「中―虫」「王―玉」など、点画の有無で、別の漢字となることがあることを確かめる。 ○これまで学習した漢字の中から, 「田」「木」「目」「口」が含まれている漢字を集め、それらを使って短い文を作る。 ○巻末P164『かん字を 学ぼう』を参考にして、ゲーム感覚で仲間集めをしてもよい。 ○似ている漢字の異同に注意を向け、筆順に従って正しく書くことができるようにする。	
				3	5. 漢字の足し算・引き算の問題に取り組む。 6. 「もののかたちからできたかん字」の問題に取り組む。 ○学習したことを振り返る。	○自分たちも、漢字の足し算・引き算の問題を作り、発表し合うとよい。 （例）「一＋土」「夕＋口」「出－山」など。 ○上巻P105『かん字の はじまり』を参考に, 「山」「月」「木」などをもとに、同様の問題を作り、発表し合うとよい。	
2	1	しりとりで あそぼう	△「なかまのことば」だけでつないでいく「しりとり遊び」のあることを知り、実際に活動してみる。 △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 ⇒◎知技(1)イ △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 ⇒知技(1)オ △長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付くこと。 ⇒◎知技(3)イ	1	1. しり通りのルールを確認する。 2. 絵を見ながらしり通りの言葉を確認め、それぞれなんの仲間かを発表し合う。 3. なんの仲間でしりとり遊びをするかを決め、グループでしりとり遊びを楽しむ。	○「しりとり遊び」を経験していたとしても、簡単なルールを確認しておく。「ん」で終わる単語を選択すると、あとへは続かないというルールで、グループで「しりとり遊び」をする。 ○教科書の挿絵で示されたしり通りの例から、仲間の言葉でつないでいく決まりになっていることに気づく。 ○挿絵のそれぞれが、なんの仲間のグループになっているかを確かめ合う。 ○違う仲間の言葉でしりとり遊びをしたり、グループで言葉の仲間を決めたりして、しりとり遊びを楽しむ。	◎【知識・技能】音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付いている。（〔知識及び技能〕(1)イ） 【態度】進んで音節と文字との関係に気付こうとし、今までの学習を生かしてしりとりを楽しもうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
2～3	15 (書く5)	七 ようすを おもいうかべながら よもう	□様子を思い浮かべて読み、登場人物に手紙を書く。				
		お手がみ	△文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 ⇒◎知技(1)カ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ⇒知技(1)ク ■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)オ □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。 ⇒思判表C(1)イ □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 ⇒思判表C(1)エ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 ⇒◎思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 ⇒◎思判表C(1)カ ■日記や手紙を書くなど、思ったことや伝えたいことを書く活動。 ⇒思判表B(2)イ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 ⇒思判表C(2)イ ☆道徳：B友情、信頼 友達と仲よくし、助け合うこと。	1 2～6 7～10 11～15	○単元名やリード文から学習の見通しをもつ。 確かめよう 1. がまくんやかえるくんの行動を整理して、お話のあらすじをつかむ。 (1)挿絵を参考に、お話の順序を確認する。 (2)物語の概要をつかんでから、心に残ったところを話し合う。 考えよう 2. 二人の変化を読み取る。 (1)始めと終わりで手紙を待つ場面の挿絵の違いを比べる。 (2)始めと終わりで手紙を待つ場面がどのように変わったのか、訳も含めて考える。 深めよう 3. このお話の好きなところと訳を話す。 広げよう 4. 登場人物の一人に宛てて手紙を書き、友達と読み合う。 ○学習を振り返る。	○単元とびらを読み、単元の見通しをもたせる。 ○単元とびらの題名、文字、絵を見て、お話を想像させる。 ○登場人物のしたことを整理する。 ○整理したものをもとにして、友達にお話を話すことにより、あらすじをつかませる。 (順序ばらばらの挿絵を並べかえながら確認してもよい。) ○物語の概要をつかんでから心に残ったことを伝え合う。 ○手紙を待つ場面の挿絵を、始めと終わりの2種類用意し、その時の登場人物の心情をふきだしに書かせ、比べることで変化を読み取らせてもよい。 ○「ここがだいじ」を確認してから、考えさせる。 ○人によって好きな場面と理由が異なり、このお話のさまざまな場面に素敵なところがあるということに気づかせる。 ○話の中の登場人物になりきって、がまくん、かえるくん、かたつむりくんの誰かに宛てて手紙を書いても、読者から登場人物の誰かへの手紙でもよい。 ○手紙を書く活動とをしておて、物語の世界に入り込んで楽しめるようにさせたい。 ○友達と手紙を読み合い、感じたことを共有させ、人によって感じ方も、表現の仕方もさまざまであることに気づかせる。 ○友達の手紙に返事を書いてもよい。	◎【知識・技能】文の中における主語と述語との関係に気付いている。（〔知識及び技能〕(1)カ） 【思考・判断・表現】「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bオ） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cオ） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cカ） 【態度】進んで文章を読んで感じたことを共有し、学習課題に沿って登場人物に宛てて手紙を書こうとしている。
3	2 (話す聞く1, 書く1)	こくごの がくしゅう こ れまで これから	◇■一年間の国語学習を振り返ったり、これからの学習について考えたりして、楽しみながら学習できるようにする。 ◇身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒◎思判表A(1)ア ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒◎思判表B(1)ア ◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。 ⇒思判表A(2)ア ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア	1・2	1. どんな言葉を学んできたのか思い出す。 2. 思い出したことをみんなで交流し、共有する。 3. 2年生でどんな学習をしたいか希望を出し合う。	○可能なら、上巻の教科書も用意し、上・下巻を合わせて振り返ることができるようにする。挿絵のふきだしや「この本で学ぶこと」を参考にする。 ○学習のノート、作成物、プリント類（ポートフォリオ）などがあれば、利用する。 ○楽しかったこと、できるようになったことをグループで話し合い、たくさん思い出してメモさせる。 ○単元名や教材名だけでなく、印象的な言葉や活動など思い出す内容は多様でよい。 ○2年生になって、「できるようになりたいこと」「やってみたいこと」「読んだり書いたりしてみたいこと」など、共有した思い出したことに対応させて、いろいろな観点で自由に出し合う。	◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。（〔思考力、判断力、表現力等〕Aア） ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bア） 【態度】進んで話題を決め、今までの学習を生かして思い出したことや2年生でどんな学習をしたいかを共有しようとしている。